

令和5年度

公益財団法人日本スポーツ協会公認

フェンシングコーチ1養成講習会（千葉県）報告

1. 主催 公益財団法人 日本スポーツ協会（JSPO）
公益社団法人 日本フェンシング協会（FJE）
2. 主管 公益財団法人 千葉県スポーツ協会
千葉県フェンシング協会
3. 日時 令和5年8月11日（金）から13日（日） 3日間
4. 会場 市川市スポーツセンター
5. 目的 『地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等でのコーチングスタッフとして、基礎的な知識・技能に基づき、安全で効果的な活動を提供する者を養成する』
6. 受講者数 15名
7. 日程

期日	<第1日> 8月11日(金)		<第2日> 8月12日(土)		<第3日> 8月13日(日)	
9:00						
10:00			10:00~12:00(2.0時間)	和田武真	10:00~12:00(2.0時間)	和田武真
	10:30~11:00 受付・オリエンテーション		「①発育発達に合わせた		「①指導実践1(集団指導)	
11:00	11:00~12:00(1.0時間)	平野一成	フットワークの指導法」		フルーレ」	
	「③指導者の役割」					
12:00						
13:00	13:00~14:00(1.0時間)	岩間秀子	13:00~17:00(4.0時間)	和田武真	13:00~17:00(4.0時間)	和田武真
	「①フェアプレイとドーピング」		「②フルーレの指導法		「②指導実践(個人指導)	
14:00	14:00~16:00(2.0時間)	水谷有里	(技術・戦術)」		フルーレ」	
	「②外傷や故障/ ストレッチ/テーピング」					
15:00						
16:00						
17:00					17:00~18:00(1.0時間)	検定員:相田光康
					検定試験	

8. 講習内容

(1) 指導者の役割

講師：JOC エリートアカデミー 元ディレクター 平野 一成

- 指導者の重要性について
- コーチングを構成する要素
- ジュニアアスリート育成について
- 現代スポーツの課題について

(2) フェアプレイとアンチ・ドーピング

講師：日本アンチ・ドーピング機構シニア DCO 岩間 秀子

- スポーツの価値を守るために自分たちでできることを考える
- 競技内外での自分ができるクリーンスポーツ行動は何かを知る
- 周囲やスポーツ全体に良い影響を与えるようになるために
- サプリメントの必要性について
- ドーピング検査の実情について



(3) 故障と障害

講師：東京大学スポーツ先端科学連携研究機構特任研究員 水谷 有理

- スポーツ外傷・障害の特殊性について
- 救急処置：RICE 処置について
- 大腿部肉ばなれについて：フェンシング競技に特化して
- 頭を強く打った時の対応について
- 筋けいれんについて
- 熱中症の応急処置について
- 救命処置の重要性について
- 子どもの外傷・障害について

(4) フェンシング実技

講師：NEXUS FENCING CLUB 総支配人 和田 武真

- フットワークの指導法について
メリハリのある動作
- フルーレの指導法について
サンティマン・デュ・フェール(Sentiment du fer) やプリーズ・ド・フェール(Prises de fer)の指導法
年少者に対する指導法（遊び感覚での指導）
- 個人指導について
距離とタイミングの重要性



9. 総 評

- 受講者の意欲的な取り組みが多く見られ、「有意義な講習会」であったという言葉が数多く聞かれた。受講者からは更にレベルを高い講習会開催の要望も出てきており、「コーチ2」以上の講習会開催が急務となっている。
- 「フェアプレイとアンチ・ドーピング」では、日常の活動の中での教育の重要性を理解することができた。
- 「故障と障害」はフェンシングの競技特性を踏まえた内容であり、指導現場にとって貴重な情報であった。JISSの長年のデータに基づいた講義内容は、説得力のあるものであった。
- 「フェンシング実技」では、日本オリンピック委員会スポーツ指導者海外研修で得た知見を元にした講習が行われ、個人レッスンなどの指導法に大きなインパクトを与えた。特に、勢いや流れのではなく、状況を考えた動きの重要性を再認識した指導者が多く見られたことは、大きな成果であった。

今回のような講習を多くの講習会で行っていくことで、日本の指導者のレベルが更に高まると考える。